

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人
第5学年	国語	36人	算数	36人	理科	36人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

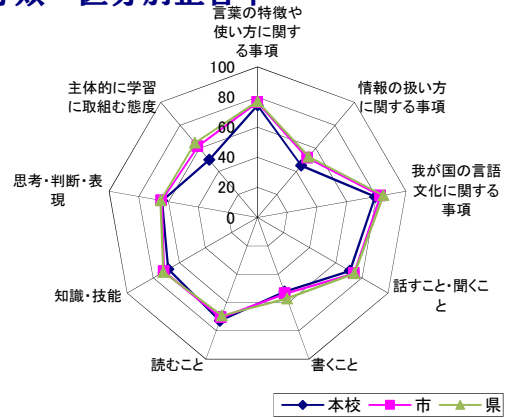
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.4	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	45.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	79.2	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	70.8	74.1	74.2
	書くこと	52.4	53.7	57.2
観点	読むこと	72.9	70.7	69.2
	知識・技能	68.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.3	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	61.6	64.7



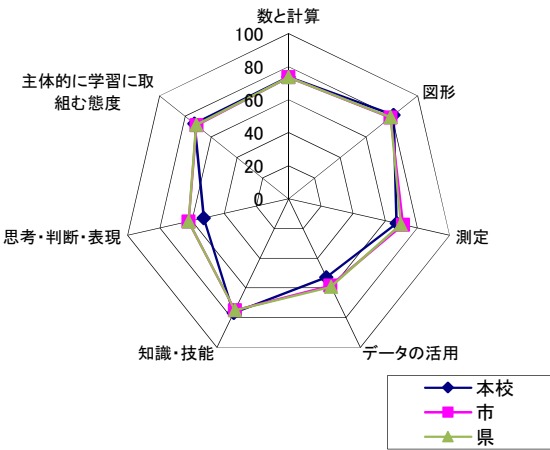
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○主語述語に関しては理解している。 ●平均正答率は、市の平均を2ポイント下回っている。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・主語述語については、簡単な文では定着が図れているので、今後は長い文章でも練習しながら、力を伸ばしていく。 ・ローマ字の読み書きについては、家庭学習や自主学習でも取り入れながら、繰り返し練習させて定着を図りたい。
情報の扱いに関する事項	●平均正答率は、市の平均を6.4ポイント下回っている。 ●国語辞典の使い方の設問では、言葉を辞書に載っている形に直すことに課題が見られた。 ●情報と情報の関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことに課題が見られる。	・国語辞典については、辞書に載っている短い形に直す練習を繰り返しながら、授業中や家庭学習などにおいて辞典で調べる場を多く持てるように働き掛けていく。 ・情報と情報の関係については、例文を参考にメモから理由となる部分を見付ける練習を行ったり、形式が類似する問題に触れさせたりしながら、理解力を養っていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均を3.6ポイント下回っている。 ○漢字のへんやつくりは、ほぼ8割の児童が理解している。	・「休」のへんを「きへん」と選ぶ誤答が見られたので、漢字練習の際には、部首を意識しながら指導して定着を図りたい。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均を3.3ポイント下回っている。 ○話合いの内容を聞き取り、話し手の工夫を捉えることができている。 ●話合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。	・話合いでは、「賛成・反対」について自分の考えと理由を実際に話すように書けていたので、今後も朝のスピーチや話合い活動を充実させながら意欲を高めていきたい。 ・聞くことの領域では、話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られるので、話を聞く姿勢やメモの取り方など、一人一人に合った指導を工夫しながら聞く力を養っていく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができている。 ●指定された長さで文章を書くことに課題が見られる。 ●条件に合った記述式の設問において、無答が多い。	・最後の記述式問題で無答が見られるので、家庭学習や自主学習で、文章を書く課題を積極的に取り入れるようにして、最後まで問題に取り組めるようにする。 ・原稿用紙を用いて文字数を確かめたり、授業の振り返りの時間に長さを指定して書いたりしながら、内容や構成を意識してまとめて書く力が身に付くように繰り返し指導を行いたい。
読むこと	○平均正答率は、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○物語の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることや、感じたり考えたりしたことを共有することができている。 ○説明文の叙述を基に、段落の内容を捉えることができている。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られる。	・物語で、叙述を基に登場人物の気持ちを読み取ることができているので、今後も、授業中に場面の様子や指示語が表していることなどを問い掛けながら、読解力を高めたい。 ・中心となる語や文を見付けることについては、教科書の文章で、中心となる語を文字数を提示して探す練習を行ったり、関連する練習問題などを意識して取り入れたりしながら読む力を養っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	73.5	73.6
	図形	81.3	79.0	79.1
	測定	67.1	71.1	69.8
	データの活用	52.8	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	52.7	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	72.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

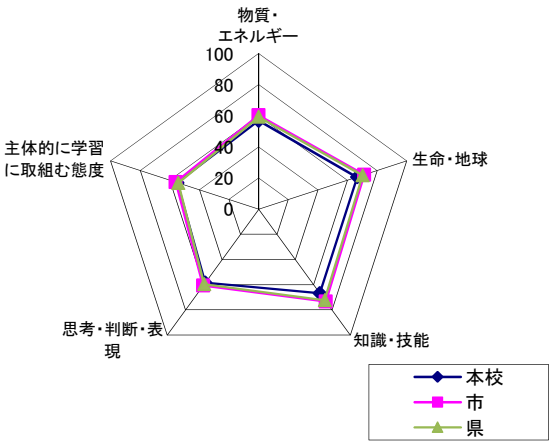
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○わり算の設問の正答率は100%で、市の平均正答率を8.7ポイント上回っており、2けた÷1けたの計算についてはよく理解できている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味についての設問は市の平均正答率も36%と低いが、校内正答率は29.2%と、6.8ポイント低く、課題が見られる。	・かけ算の筆算に関しては、出てくる数の意味を復習し、筆算の本質を理解する時間を設け、確実な定着を図る。 ・朝の学習の時間を活用し、苦手な単元の復習を行い、基礎基本を定着させていく。 ・児童同士が教え合うような、学び合いの活動を増やし、相互に理解が深まるようにしていく。
図形	○正答率は、市の平均より2.3ポイント上回っている。 ○正三角形を作図する設問の平均正答率は97.9%で、市の平均正答率を9.8ポイント上回っており、定規やコンパスを利用した作図について十分に理解できている。 ●円の半径についての理解には課題が見られる。	・円と球については、円の直径や半径の長さを正しく捉えることができるように、具体物を用いたり、図を描かせる活動を取り入れたりし、知識・技能の定着を図っていく。
測定	●正答率は市の平均正答率より4ポイント低い。 ○1分＝60秒の関係や道のりの意味については理解できている。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを求めることや単位の前にkがつくと、元の単位の1000倍になることに関しては課題が見られる。	・はかりの目盛りを読み取る問題では、求められている答えを誤認している児童が多く見られたため、問題文をしっかりと読んで取り組むよう、意識付けをさせていく。 ・単位の問題は、授業内や家庭学習を活用して、繰り返し問題に取り組みせたり、図や数直線を利用して単位の大きさを捉えやすくしたりして定着を図っていく。
データの活用	●正答率は市の平均正答率より5.6ポイント低い。 ●棒グラフの目盛りの大きさに着目し、間違いを指摘する設問の平均正答率は50%で県の平均正答率より13ポイント低い。 ○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る設問は、市の平均正答率と近い値であった。	・棒グラフを正しく読み取る問題に課題があるため、グラフを見る際には、目盛りの値がいくつを表しているかを確認してから、グラフを読み取るよう指導する。また、グラフを描かせる活動を取り入れるなどし、グラフの構造を理解できるように指導する。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.8	60.2	59.2
	生命・地球	66.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	66.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は、市の平均正答率より3ポイント低い。 ○「光のせいしつ」では、ソーラークラッカーで料理ができる理由を説明する設問での平均正答率は市の平均正答率より11.5ポイント高かった。 ●方位磁針の正しい使い方の設問での正答率は、市の平均正答率より14.8ポイント低い。 ●「じしゃくのせいしつ」では、磁石につく物とつかない物を答える問題の正答率が市の平均正答率より12.6ポイント低く、また磁石の極を確かめる方法を構想する問題では、市の平均正答率より15.1ポイント低い。	・方位磁針の使い方など、実際に操作を行って確認することができるものに対しては、引き続き操作の仕方を繰り返し練習して覚えていく必要がある。 ・「じしゃくのせいしつ」では、磁石の極の性質など、基本的な内容の理解が不十分であったので、基礎事項を徹底して指導していく。
生命・地球	●平均正答率は、市の平均正答率より5ポイント低い。 ●ホウセンカとヒマワリの子葉を理解しているの設問での正答率は、市の平均正答率より20.6ポイント低い。 ○こん虫の育ち方では、モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する設問での平均正答率は市の平均正答率より6.5ポイント高い。 ○「身近な自然のかんさつ」では、野外の観察で近づいてはいけないとげや毒のある生物を理解している」の設問での平均正答率は市の平均正答率より6.2ポイント高い。	・「こん虫の育ち方」では、実際に教材園でキャベツの葉を観察したことで知識や技能を身に付けることができたので、引き続き実際に生き物を観察する時間を設けていく。 ・ホウセンカやヒマワリの子葉の理解では、観察をしたが、見分けることができない児童の割合が多かったため、今後は、スケッチをして観察するだけでなく、写真やクロームブックを活用して何度も振り返ることができるように指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学ぶ意欲に関しては、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答が84.5%、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」が88.3%「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」は、98%といずれも高く、市や県の割合を上回っているため、今後も、基礎基本を定着させ、一人一人が意欲的に学習に取り組めるように支援を工夫していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」は、91.7%で市の平均と比べて5.3ポイント高くなっている。「学校のきまりを守っている」も95.9%と高く、学校で決まりを守り、生き生きと生活していることがうかがえる。また、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」77.1%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」60.5%「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」97.9%は、いずれも市の平均より高くなっている。今後も、学校課題である「居がよい、やりがよい、学び合いを目指した学習指導」に努め、児童の成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

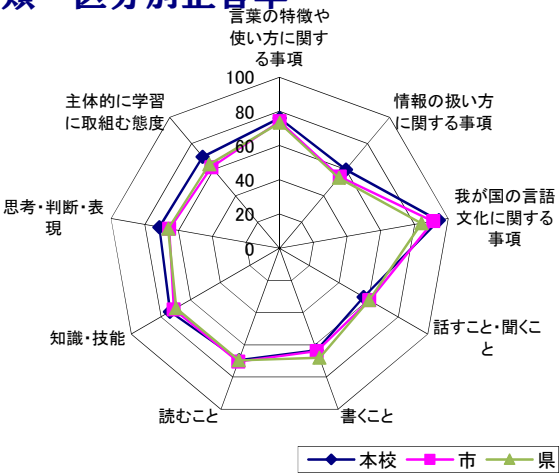
●家庭での学習では、「家で学校の授業の予習をしている」43.7%、「家で学校の授業の復習をしている」54.2%、「家で決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」45.9%といずれも半数程度で、市や県の肯定的回答を下回っている。特に、「自分で考えた勉強をしている」は、市よりも14.9ポイント低く、家庭学習の取組に課題が見られる。「学習習慣定着強化週間」での声掛けや、学年だよりや懇談会などで、家庭と連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるように指導に努めたい。

●「ふだん、1日当たり、どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり聞いたりしますか」で、4時間以上と答えた児童の割合は、31.3%で、市の15.2%を大きく上回っている。「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」でも、3時間以上が31.3%で市の21.8%を9.5ポイント上回っている。逆に「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」では「8時間以上」と答えた児童の割合は、56.3%で、市の78.5%、県の78.1%と比べて、20ポイント以上低くなっている。家庭と学校が連携して、家庭での過ごし方について、考えていくようにしたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.1	74.2	73.3
	情報の扱いに関する事項	60.2	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.4	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	56.7	60.6	60.4
	書くこと	63.2	63.8	68.0
	読むこと	69.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	74.0	71.3	69.9
	思考・判断・表現	71.3	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.9	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は、市の平均と比べて1.9ポイント上回っている。 ○第4学年の漢字の読み取り、書き取りの設問は、市及び県の平均を上回っているものもある。 ●文法に関する設問では、市及び県の平均を下回っている。特に修飾語についての理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、ドリル学習や家庭学習で練習を重ねていく。定期的に漢字テストを行ったり、宮つ子ステップアップシートも活用しながら定着させていく。 ・文法学習については、簡単な文で主述を探す練習を行い徐々に修飾語へとステップアップさせたり、読解の際に文の主述関係を捉えさせるようにしたりし、理解を図る。
情報の扱いに関する事項	○平均正答率は、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方に関する設問では、市及び県の平均を5ポイント以上上回っている。 ●話し合いの様子を読み取る設問では、市及び県の平均を下回っており、理由や事例を挙げながら説明を考えることに課題が見られる。	・漢字の学習のときは、読み方だけでなく部首や総画数も意識させて練習に取り組ませる。また、漢字の用法も合わせて学習し、語彙力を高めさせたい。 ・自分の意見を述べるときは、理由やその根拠となる事例も挙げて考える練習をする。メモの取り方を確認し、話し合いのときは積極的にメモを取らせたり、要点をまとめて書く練習をしたりし、情報と情報を関連付けて考える力を養っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○文章に適したことわざを選択する設問では、市及び県の平均を上回っている。正答率は90%以上で、ことわざの意味と使い方を正しく理解している。	・教科書に示された使用例以外のことわざにも注目させ、意味を調べさせたり使用例を考えさせたりする。言語文化のすばらしさを考え、言語感覚を養っていききたい。
話すこと・聞くこと	○条件指定で、表から読み取ったことを2段落構成で書くことについては、市の平均を上回っている。 ●平均正答率は、市の平均より0.6ポイント下回っている。無解答率も15%以上だった。 ●条件指定で、自分の考えを理由や事例と関連付けて書くことについては、市及び県の平均を下回っている。	・テーマや字数など、指定された条件や構成に合わせて文章を書くことを練習する機会を設け、文章を書くことに慣れさせていく。 ・他教科も活用し、自分の考えが明確になるように理由や根拠を挙げて文章を書く指導を行い、書く活動を日常的に行っていく。無解答も見られたことから、時間配分を考えて文章を書く練習も積み重ねていく。
書くこと	○条件指定で、表から読み取ったことを2段落構成で書くことについては、市の平均を上回っている。 ●平均正答率は、市の平均より0.6ポイント下回っている。無解答率も15%以上で満足な状況とはいえない。 ●条件指定で、自分の考えを理由や事例と関連付けて書くことについては、市及び県の平均を下回っている。	・テーマや字数など、指定された条件や構成に合わせて文章を書くことを練習する機会を設け、文章を書くことに慣れさせていく。 ・他教科も活用し、自分の考えが明確になるように理由や根拠を挙げて文章を書く指導を行い、書く活動を日常的に行っていく。無解答が見られたことから、時間配分を考えて文章を書く練習も積み重ねていく。
読むこと	○説明文で段落の内容に当てはまるものを選択する設問では、市及び県の平均を上回っている。 ●平均正答率は、市の平均を1.0ポイント下回っている。 ●物語文で登場人物の気持ちを選択する設問では、市の平均を下回っており、叙述を基に捉えることに課題が見られる。	・説明文では、大まかな内容を捉えさせ、起承転結、具体例や要点の段落などを捉える練習に取り組み、説明文の読み方を身に付けさせたい。更に、要点をまとめる練習をし、文章を書く機会も合わせて取り入れ、書く力も高めていきたい。 ・物語文では、登場人物の心情が分かる言葉を探したり、心情が変化した原因や理由を行間から考えたりする練習をして、読解力を高めていきたい。

レーダーチャート表示用タイトル
言語の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項
話すこと・聞くこと
書くこと

読むこと

知識・技能

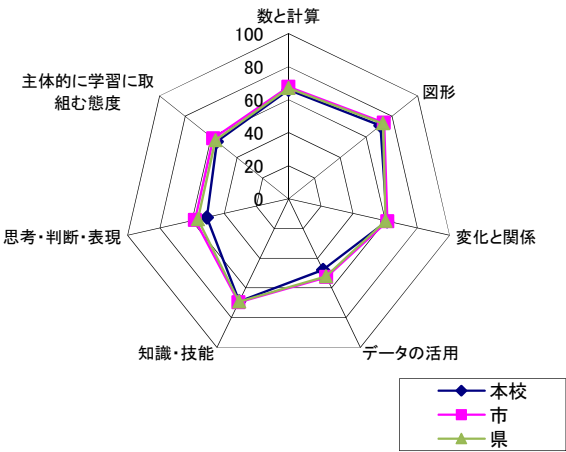
思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.0	67.8	67.0
	図形	71.2	73.9	73.1
	変化と関係	61.1	61.4	60.2
	データの活用	47.9	52.7	52.1
観点	知識・技能	69.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	50.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	55.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

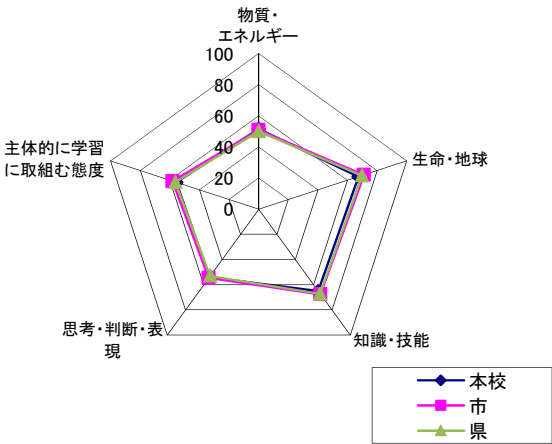
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は市と比べて、1.8ポイント低い。 ○小数と整数のかけ算やわり算の計算は市の平均を上回っている。 ●億と兆・概数などの数の相対的な理解について、市の平均より20ポイント以上下回っている。 ●上から2桁の概数で表す問題の正答率は10ポイント近く低く、上から1桁の概数で答えている児童も3割程度見られた。	・今後も朝の学習や授業の時間を活用して、計算練習に取り組ませ、基礎・基本の問題を早く正確に解けるようにしていく。 ・既習事項の復習を取り入れながら、つながりを大切にした指導を工夫していく。 ・億や兆など位の関係や数のまとまりによって位が変わることを定期的に確認し、身に付けられるようにする。 ・概数で表す問題では、正しい処理が行えるように、手順を確認する。
図形	●平均回答率は市と比べて、2.7ポイント低い。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率が47.2ポイントで市より20ポイントも下回っている。 ●1,000円札のおよその面積を求める問題では、市の平均正答率より10ポイント低い。 ○直方体の辺のやひし形の作図など図形の性質についてはよく理解できている。	・角の大きさについては、実際に分度器で測るだけでなく、分かっている角度をもとに分からない角度を求める問題に取り組ませる。 ・日常生活の中で、物のおよその面積がどれくらいかなどのやり取りをし、大きさを想起させる場面を設定するようにする。 ・図形の性質については、基礎的な内容の反復や様々な形の立体に触れることで理解をさらに深めさせ、今後の学習につなげていく。
変化と関係	○市の平均回答率とほぼ同じである。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問での正答率は高い。 ●数量の関係を割合で説明する問題の正答率が市平均より10.3ポイント低い。	・日常生活の中で、どの数量をもとにした何倍になっているのかなど数値を取り入れながら考える習慣を身に付けさせる。 ・伴って変わる二つの量については、変化の仕方について、言葉の式で表すことから、○や□に置き換える練習を繰り返し行い、定着を図る。
データの活用	●平均回答率は市と比べて、4.8ポイント低い。 ○折れ線グラフ・棒グラフの読み取りは市平均より13ポイント高く、正しく読み取ることができている。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取り分かったことを整理したり、二次元表を読み取ったりすることが難しく、市平均より15ポイント低い。	・2つのグラフから正しい情報を読み取るために、棒グラフと棒グラフ、棒グラフと折れ線グラフといった複数のグラフの読み取りの練習を行う。 ・問題を読み取り、自分の考えを説明する力を身に付けるために、日常生活や他教科の学習でも、自分の考えを筋道を立てて説明する機会を多く設ける。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.5	50.8	50.0
	生命・地球	67.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	65.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	53.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	55.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○正答率は、市平均と比べて0.7ポイント高い。 ○物のあたため方についての設問では、市平均より22.9ポイント上回った。特に、「予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する」問題では、市の平均正答率を10.5ポイント上回った。 ○水のすがたについての設問では、市平均より3.6ポイント上回った。水の姿の変化の理解を問う設問では、市平均より19.7ポイントと大きく上回った。基礎・基本を徹底させた成果と考えられる。 ●「物の体積と温度」では、市平均をやや下回ったが、全体としてはほぼ同等と言える。しかし、実験の結果をもとに、原理を推測する設問では、市平均より11.7ポイント下回った。	・自然科学の知識を身に付けて実感を持った理解が得られるように、実験前に既習事項をもとに予想をさせたり、見通しを持たせたりする活動の工夫や実験の改善を図っていく。また、実験後の結果と考察だけでなく、まとめ、振り返り、次時の導入場面などで確認をしていくことで、知識の定着を図る。 ・学習内容に関わる生活経験を振り返らせたり、既習事項から予想させたりすることで、自己の身近な生活の中での経験が実感を持った知識につながるよう促していく。
生命・地球	●正答率は、市平均と比べて3.7ポイント低い。 ○「1年間の植物の成長」の問題では、どの設問でも市平均を上回った。グラフを活用してヘチマの成長の変化を考える設問では、市の平均正答率を上回った。 ○雨水のゆくえと地面のようすを問う問題では、全設問で市平均を上回った。土の粒の大きさと水はけの関係の設問では、市平均より13.7ポイント高かった。 ●「動物のからだのつくりと運動」の設問では、市平均より12.4ポイント低かった。脚を伸ばしているときの筋肉の様子を図を見て答える問題では、市平均より25.2ポイントと大きく下回った。 ●「月と星」の設問では、市平均より10.2ポイント低かった。どの設問でも正答率が、市の平均を下回った。	・身近な自然の観察は、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物を見ることによって観察の仕方が身に付いてきているので、引き続き指導していく。 ・月や星の動きや動物のからだのつくりなど、児童にとってあまり身近ではなく、理解しにくい内容については、ICTも含めた複数の情報や資料等視覚的に分かる教材を取り入れて知識の定着を図り、理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関する質問項目では、市の平均を上回るものが多い。「予習」や「復習」などの学習習慣の定着している児童が多いことがうかがえる。

●学習時間については、平日1時間以上取り組んでいる児童が、77.8%と市の平均より17ポイント高い。しかし、土日になると学習時間が短くなり、全くしない児童も11.1%見られ、今後の課題である。

●「宿題」については、97.2%の児童が取り組めているが、「テストのまちがえ」や「自分で考えた」勉強への取組は市の平均よりも低い傾向が見られた。自主学習において、テストの間違え問題を活用するなど具体的な指導を行いたい。また、「学校の宿題はやりたくなる内容」については、市の平均よりも低く、理由等について考察したり、内容を工夫したりする必要がある。

○「勉強していて、おもしろい」「不思議だ、なぜだろうと感じる」の肯定回答の割合は市の平均とほぼ同じで、学習に興味を持って取り組んでいることがうかがえる。特に「理科」「総合的な学習」など、実験や調べる活動の多い学習に進んで取り組んでいる。

●「国語」や「算数」が将来役に立つことは分かっているが、「好き」の質問に対して、「どちらかといえば、いいえ」と否定的な回答をする割合が高かった。「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」では、市の平均より11.1ポイント低かった。また「学習に、自分から取り組んでいる」「できるだけ一人の力で課題を解決しようとしている」についても肯定割合の低い傾向が見られた。

○授業では、「めあて」をつかみ、「話合い」をしながら考えを深め、「ノートにまとめ」「振り返り」をよく行うなど、どの質問項目においても肯定割合が市の平均より高く、落ち着いて学習に取り組んでいることがうかがえる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」や、「自分の考えや意見を発表することは得意」の肯定割合がやや低かったり、苦手意識が高いことが分かる。引き続き授業の中で意図的に取り上げ、指導をしていくことが必要である。

●「クラスの役に立っている」については、肯定割合が高く、学級での居がいを感じている児童が多いが、「自分には、よいところがある」では否定的な割合が市の平均より9.4ポイント高く、自己肯定感を高めるような指導や、自尊感情の育成に努めたい。

○読書については、49.3%の児童が「1日30分以上の読書をしている」また、「月に5～10冊の本を読んでいる」など市の肯定割合よりも高い傾向であった。今後も、本に関する関心を高める指導の継続を図りたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善と工夫。	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を行う。 ・学習習慣と基礎・基本を定着させるための指導の工夫。	・見通しを持って学習に取り組めるような課題の提示と、まとめ・振り返りに全校で取り組んできた。「主体的に学習に取り組む態度」の肯定的回答の割合がやや低かった。 ・各教科とも、基礎的な内容の理解はできているが、思考・判断を要する応用的な問題に課題が見られる。今後の指導をさらに工夫していきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「話す」「書く」「聞く」という自分の意見を表現したり、相手が伝えたいことを聞き取ったりすることに課題が見られた。	・自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。	・話合い活動や、朝の会のスピーチなどで話すことに自信が持てるように支援する。家庭学習に一言日記を取り入れるなど書く機会を増やす工夫をしていく。 ・朝の学習の時間を「モジュール学習」として位置づけ、基礎・基本の定着を図るために確実に活用していく。 ・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、児童同士の学びを共有し、意見を交換し合う中で、課題を追究しようとする意欲を育てていく。